

○ 「生涯学習の視点に立った社会教育の在り方」について

- ・ 「宮崎県社会教育委員会議提言骨子」について

《Aグループ》

	<p>【柱①：みんなでつながる（連携・協働）】</p>
委員	<p>地域には様々な団体があるがお互いのことを知らず、学校も把握していない。団体同士のネットワークづくりのために一覧表などを作成の上、学校等の各機関に配付できると良い。そうすると、学校単位、学級単位の団体の活用が可能となる。</p>
委員	<p>家庭教育支援の会議の中においても、つながることの大切さは話題になった。</p>
委員	<p>地域と学校の連携がうまくいかないことが多々ある。育成会も地域との連携がうまくいっていない。そのため、コーディネーターが重要になる。</p>
委員	<p>コロナにより活動が途絶えている。また、働き方改革からも、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えて、体制を再構築していくことが必要である。</p>
委員	<p>〇〇市では、地域と学校の連携が盛んになってきている。「〇〇市の未来をみんなでつくっていこう。」という目的が一つになっている。そうした中、中高の学びの連携をし、合格させるためだけでなく、どう生きていくかを考えられるような学びを教育課程に取り入れており、年間を通して地域と学校が連携する企画がたくさん出てきた。</p>
委員	<p>〇〇町には、地域と学校をつなぐセンターがある。 学校の依頼を受け、センターが受け入れ先を探した。職場体験学習では、農家の方々が工夫してくれ、農作物の植栽や収穫、団子作りやジャム作りを行った。そこで働くことの意義を学び、有意義な活動になった。</p>
委員	<p>職場体験について、あずかる企業側も意識をもって受け入れる必要がある。</p>
委員	<p>高校生は主体的に企画ができる。そこが大きい。経済を動かすような力をもっている。学校を通さずに、生徒と企業が直接やりとりできるようにならないかと思う。 学校はあくまで窓口であり、教員はそこまで関わらなくて、生徒の後押しでも良いと思う。</p>
委員	<p>コーディネーターの存在は大きい。その力量により、活動のマンネリ化は防げる。</p>
事務局	<p>【柱②：多様な価値観に気づく（啓発）】 日々スキルアップしていかないと社会に対応できない。幼い頃から学ぶことで、自分のできることに気づき、どんどん地域にも目を向けることにつながる。</p>

委員	失敗を恐れて何もできない子どもが増えている。失敗しても何度でも挑戦することが大切で、また周りが励ますことで意欲につながるのではないか。
委員	地域で価値観を育てるためには、まず地域を知ることが大切である。地域での学びを教育課程に位置付けていく。そうして、何ができるようになるかにつなげる。時に新しい観点を取り入れつつ見直していく。
委員	社会教育の延長線で宮崎県内の魅力を知ること大切である。豊かな体験が知識にもつながっていく。
事務局	【柱③：学びを広げる（機会拡大）】 学校教育では、一気にICT化が進んでいる。会議や伝達であれば、コロナ禍でもできるようになった。地域では、通信機器の問題とか人的問題がある。デジタルとアナログがどの場面が最適か、検証していかないといけない時期ではないか。
委員	SNSやインスタでの告知はすぐ有効である。デジタルを通してアナログに誘導したい。ただし、SNSが第三の居場所になるといった使い方には気をつける必要がある。小さな画面に縛られるのではなく、大きなリアルに目を向けることが大切である。
委員	対面とデジタルの併用が大事である。コロナが収束しても、リモートがなくなることはない。
委員	コロナで失ったものもあるが得たものもある。デジタルの急速な躍進により、働き方や世の中の価値観も変わってきた。どこにつながる経験をさせるかが大事である。
委員	デジタルの光と影を理解することが大切である。
委員	デジタルについていけない部分があり、高齢者へのZoom講座等が必要である。
委員	学びたいと思う高齢者に高校生が教えるなど可能である。
事務局	コロナにより、どこでもだれでもつながる先がより広がった。
委員	やりたいが方法が分からない人のための手立てが必要である。だからコーディネーターが必要になってくる。
事務局	コロナ禍前に子ども達に本物にふれさせたい時、電話が精一杯だった。しかし、今は大きな画面で直接顔を見て会話ができるシステムがある。多様な価値観を育てる大きな進化だと思う。
委員	生涯学習実践研究交流会は、令和2年度はリモートで行った。その中で他県の方のいろいろな情報を得ることができた。令和3年度はリモートと対面で行った。他県の方と対面での情報も聞け、良かった。学びの形の広がりが見られた。

事務局	オンラインには垣根がある。苦手な人にリモートへの抵抗がある一方で、若者層は使い勝手が良い。解消する方法、折衷案が必要だと感じる。
委員	苦手でもオンラインの会に出てもらう、機会の提供が必要である。
事務局	リモートの手順を示せば、垣根もとれるのではないか。

《Bグループ》

委員	<p>【柱①：みんなでつながる（連携・協働）】</p> <p>市の学校運営協議会で委員をしていたが、地域の方とやっていきたいと思いますというスタンスであるが、実態として浸透していない。</p>
委員	地域学校協働本部自体は配置したという程度でとどまっているところもある。
事務局	学校運営協議会と地域学校協働本部の一体的推進のイメージは、運営協議会でブレイン的な話合いをして、実働部隊（協働本部）につなぐ。それをつなぐのがコーディネーターの役割と考えている。
事務局	<p>地域学校協働本部は既存の組織でも良い。</p> <p>ここ数年でコミュニティ・スクールの設置が進んでいる市もある。また、地域学校協働本部の役割として、まちづくり協議会がある。PTAも立派な組織であり、協働するには欠かせないものである。</p>
委員	<p>「コミュニティ・スクールって何？」という保護者の声もある。また、学校運営協議会の委員は同じような顔ぶれが多い。</p> <p>先進校は地域の防災が世代をこえて行われているが、横の地域が何を行っているかは知らない現状がある。</p>
事務局	もともと宮崎県には地域の土壌があり、何か新しいことをしないといけないのではという考えがある。また、手伝うけど、意見を言わない人が多い。意見を言うので、お互いに伝え合うことが大切である。
委員	コーディネーターは「ひと」「もの」を知っている人が適任である。
事務局	「子どもは地域で育てる」という意識ももっていただく。そして目的、目標を共有する場が学校運営協議会である。
委員	学校と運営協議会が対等な関係はなかなか難しい。
事務局	教職員は転勤するので、地域にずっといる住民の意見が反映されないといけない。対等な関係が大切である。地域側が受け身になってはいけない。
事務局	地域学校協働本部では学校経営方針を承認するだけでなく、経営方針が深まるような協議を進めていくことが大切である。

	<p>【柱②：多様な価値観に気づく（啓発）】</p>
委員	<p>地域の自治会では、コロナ禍を除いても、人間関係の希薄化が進んでいる。行事を組めない状況が、コロナ禍以降取り戻せるか不安である。</p>
委員	<p>コロナ禍前から希薄化を感じているが、拍車がかかったように感じる。ウィズコロナの中、自治会でつながる意識の醸成をしていくのは難しい課題である。</p>
委員	<p>人権啓発の美化活動で、親子会が植栽を計画し、地域のふれあいにつながっている。</p>
事務局	<p>新しい生活様式の中でどう社会教育を進めていくかも含めていく必要がある。 例えば、対面、オンライン、ハイブリッド型という会合の形態は、コロナの状況が落ち着いても続いていくと考えられる。</p>
委員	<p>自治会活動の点から言えば、〇〇地区は自治会加入率が90%をこえており、取組として、高齢者とeスポーツでふれあう活動を行っている。子どもと一緒に高齢者も楽しむ姿が見られ、多様な価値観に気付ける取組であると感じる。 今までのやり方は難しいので、新しいものを取り入れつつ異世代交流を進めていることが大切である。</p>
委員	<p>生涯学習講座でeスポーツを取り上げてもらえれば、世代間交流もできて、新たな気付きも生まれる。</p>
委員	<p>自治会については脱退する人もいるが、新たな加入が課題であると感じる。</p>
事務局	<p>居住地の自治会では、コロナ禍で世代間交流ができなかった。異世代交流が成り立たない。良い伝統を生かしつつ、近い将来について集って語り合う必要性がある。 また、以前は通信を出していたが、地域に情報を発信する必要性があると感じる。</p>
事務局	<p>アイデアを出しながら、絆はつないでいく必要がある。</p>
委員	<p>地域では回覧板でしかつながらない、顔が見えない現状がある。</p>
事務局	<p>回覧板も一工夫あるだけで受け取り方が違う。地区では、通信を一番上にのせて回している。</p>
委員	<p>地域住民への情報の回し方に課題がある。公民館活動等が好きな人だけにしか情報が回らない。意識の低い人に気づいてもらうためにうまく回すには、広く啓発が必要である。</p>
委員	<p>地域活動に興味のある方は自分でやっていく。関わらない人はずっとそのまま。意識の高い人がいるといたないでは全然違う。自治会活動が停滞してしまう。</p>
事務局	<p>毎年公民館長が代わる。2年間には行うべき。そして、やりたい人がやることで活性化につながる。リーダー育成が大事で、ここからの啓発が必要である。</p>

委員	民生委員の欠員のところがある。なり手不足の現状がある。
委員	ほとんどの自治会は会長のなり手がいない。自治意識を啓発・醸成し、リーダーを育成していく必要がある。
委員	関心のない、投げかけに応じない人へどう届けるか、別のアプローチでいかないと真っ向勝負では難しい。
委員	P T A活動も同じで、「やる」「やらない」が分かれる。活動に人が集まらない。来てほしい人に来てもらえない。
委員	参加した方が他の人に伝えることで活動の広がりが出てくると感じた。
委員	参加したことなどを話していくことで、雰囲気づくりができてくると違ってくる。
委員	【柱③：学びを広げる（機会拡大）】 インスタを使って生涯学習のことを情報収集している。とても分かりやすい。
委員	行政の掲載の仕方だと、フォロワー数が伸びないように感じる。また、年齢別のアプローチが必要であると思う。
委員	ハッシュタグだと探しやすい。
事務局	県教委では、フェイスブック等での発信を行っている。生涯学習課ホームページでは、今年度からスマホサイズの掲載を始める。
委員	S N S活用の機会拡大や異世代交流としても、大学生が高齢者にスマホの操作を教えるのはどうか。携帯電話会社によるスマホ教室を行っている。
委員	大学の公開講座の際、メールアドレスを登録したら、次の案内が届くようになった。自動的に情報が入ってくれば、関心があるものに参加する。S N Sの有効活用が大切であると感じた。
委員	S N Sについては、ついていけないところがある。希望者は乗り遅れないように感じる。
事務局	地区の拠点として、公民館の活性化、若者と高齢者の学びの機会の提供が必要であると感じる。そしてマネジメントするのが公民館主事や社会教育主事であり、力量が発揮される。
委員	いろいろな公民館が様々な取組をしているが、固定化しているように感じる。
事務局	機器があるかどうかも大事。デジタル機器が整備されていれば、公民館間の交流も可能になる。

委員	ケーブルテレビと連携して、高齢者向けの講座があれば見るのでは。
委員	スマホは疎いが、ケーブルテレビであれば見るかもしれない。
事務局	リカレント教育や共生社会の視点の学びも必要である。障がいのある方の学びの機会は閉ざされている。公民館講座の中に障がいがある方も一緒に学べる機会があると良いなと思っている。
事務局	いろいろな家庭環境、共生社会等も含めて、そういった多様な形態があると参加の門戸が広がる。
委員	子育てや介護等、時間的な制約がある方は、ピンポイントでの参加は難しいので、オンデマンドが良い。
事務局	共生社会の視点からもオンデマンドは効果的である。
委員	家から離れられない方の機会や、孤立しないような機会につながる。
事務局	文部科学省はどんな方でもいろいろな手段を使って、生命を守るためにつながる社会を目指している。
委員	ますます自治会（小さな単位）でのつながりが重要になってくる。
事務局	自治公民館の防災を活性化できると良い。
事務局	デジタルなどいろいろな手段でつながることが大切である。例えば、〇〇委員が先ほど述べられたスマホ教室は総務省が携帯電話会社に働きかけているものである。
委員	通信環境の整備は各家庭なのか。
委員	行政側なのか。
事務局	どちらも考えられる。例えば、公民館にオンライン設備があれば、コロナ禍でも各家庭が公民館を利用して、学習の機会につながる。
事務局	デジタル庁は、デジタルだけでなく、いろいろな手段を使って情報を得ることを進めている。情報を得るチャンネルを増やしていくことが大切である。
事務局	県教育研修センターにはアーカイブがあるが、大学の先生は講演料がかかるため、期間限定にしている。一番広がるのは、新聞や県広報番組であり、県広報番組はアーカイブでずっと見ることができる。

《Cグループ》

<p>委員</p>	<p>【柱①：みんなでつながる（連携・協働）】 ○○はコミュニティ・スクールが盛んだが、新型コロナウイルスがネックで、学校としてできないこともある。コロナ禍の中でもできることをしていかないといけないと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>数年前は病気等でそういった制限がかかるとは想定していなかったが、今後はパンデミックを想定しながら、連携・協働していかないといけない時代になった。</p>
<p>委員</p>	<p>組織の高齢化が進んでいる。どう今後バトンタッチするか、人材確保、育成が必要である。 また、大半が教育に受動的である。自治会長等を集め、「地域の社会教育とは。」 「子どもへの教育とは。」等を共有しつつ、一つやってみて、その後反省してみる。 連携・協働がうまくできる成功事例をつくる必要があるのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>学校と地域の協働と言っても、学校のフィールドにもってこようにしている気がする。また、人材の育成というが、地域にはコーディネーターはたくさんいる。それでも連携できていないのは、学校は学校で完結しようとする、地域は地域で完結しようとするからで、そこがうまくつながる必要性を感じる。「学校」対「地域」ではなく「地域」の中の「学校」であることが大切である。</p>
<p>委員</p>	<p>「地域の力による学校の支援」と「学校の力による地域の支援」は、地域と学校がそれぞれ独立しているという印象を受ける。柱②にもつながるが、学校は学校の考え、地域は地域の考えではなく、何を大事にするのかを互いに知る。理解を大切に、じゃあどうするかを考えていかなければならない。</p>
<p>委員</p>	<p>コーディネーターの養成講座等はあるが、その後、コーディネーターに権限があるわけではない。</p>
<p>委員</p>	<p>コーディネーターが力を発揮し、活躍できるようなシステムが必要ではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>市町村がコーディネーターをどう活用するかが課題である。コーディネーター養成も国からの助成を市町村に出すようにしている。しかし、市町村の理解までしていない。○○町ではコーディネーターを準公務員として条例に位置付けた。</p>
<p>委員</p>	<p>これまでコーディネーターの必要性は議論してきたが、どんな役割や権限をもたせるのかは、議論してきていない。</p>
<p>委員</p>	<p>なぜ進まないのかという点を切り込んで、コーディネーターの役割や権限を提言の中に明記してはどうか。コーディネーターは社会教育の推進のカギになる。それが人口減少、市町村存続にも関わる部分になるのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>それができるのは行政である。</p>
<p>委員</p>	<p>人を雇う費用も大切である。</p>

委員	そうなると地域の価値観が変わる。
委員	市町村の存続も含めて、首長が十分に認識して引っ張っていくことが必要である。こうした現状とどう変わる必要があるのかを文章化して、市町村を説得する。
事務局	振り子みたいなもので、「ゆとり」「学力」「コロナ」「人口減少」…そういったことの解決のために、生涯学習課の事業は非常に重要である。
事務局	〇〇地区のコーディネーターは公民館館長かなと思う。権限があり、地域でこんなことをすると館長が言うと、誰も反対しない。
委員	区長会で「社会教育とは。」等話す機会があると良い。
委員	公民館長や区長は権限があるが、責任もあり、人望がある。
事務局	〇〇地区は地域で力をもっている人に引き継がれている。
事務局	〇〇地区は組織がしっかりしている。公民館長は地域に対するプライドがある。
委員	コーディネーターは「鳥の目」をもち、広い視野が大切である。地域をうまく機能させるためには、「ここをつなげれば」という視点であると良いかなと感じる。
	【柱②：多様な価値観に気づく（啓発）】
委員	「学びって何ですか？」に戻る。「気づいて」だけでいいのか。もう一つ何かほしい。
委員	気づいて、行動に移すことではないか。
委員	学びは知識だけではなくて、行動までほしい。
委員	知識だけではなく、人とのつながりを大切にする。 「気づく」だけではなく、「認める」「尊重する」ことができるような社会教育を目指す。 LGBTの支援に関わることで、生きやすい世の中に変わってきている。中学校でもLGBTの認知が進んできている。
委員	「気づく」と、もう一つほしい。
	【柱③：学びを広げる（機会拡大）】
委員	現在、デジタルやSNSがものすごく発達している。また、現場に行けなくても、ZoomやTermsを使えば、すぐに研修会に参加できる。
委員	柱③のキーセンテンスはよい答えが出ている。それに肉付けする形になるのかなと思う。肉付けをするなら、デジタルに頼りすぎず、アナログで補うことも必要である。

委員	デジタルの発達に目がいくが、アナログも大事にしないといけない。
委員	デジタルは手段であり、目的化せず、うまく利用しないといけない。人とのつながりにもっていかないといけない。
委員	デジタルに予算がついているが、地域のつながりは、最後は「人」。デジタルでつながれない。
委員	学校ではGIGAスクールで機器が入っている。高齢者にとっては、ハードルが高いため、高齢者対象のICTを勉強する機会が必要となる。また、図書館を子どもが活用する際、デジタルで必要な情報をとることも必要であるが、ペーパーで情報をもってくることも大事である。バランス良く効果的な活用をしていくことが大切である。
委員	普段はニーズに合わせた興味のあることにしか意識が向かない。知らない世界に出会えることで学ぶことはある。
委員	「学び」とは何だろう。普段は、「知識」とか「情報」だと思うが、意見を聞いてみると、人とのふれ合いや出会いを通して、人間が豊かになるような学びができる機会とも押さえ直す必要がある。そのために、デジタルとアナログのそれぞれの良さをうまく使った社会教育が大切である。
委員	学校って整っており、おそらく成功感を味わわせることになっている。しかし、人と出会って感じる敗北感や失敗からの学びも必要である。それには、いろいろな人との学びが大切であると感じる。
委員	情報だけでなく、人と出会う機会も大切である。
委員	人とのつながりの場はどこか。それは「くらし」であり、勉強とか知識だけでなく、こうやったら大人に怒られるなども学ぶ。地域の祭りとか、大人の会話とかから学ぶこともある。日常の中での学びが本当の社会教育になっていくと感じる。
委員	昔は一緒に学校にも障がいのある子どもがいた。くらしの中にはいろいろな出会いを入れることが大切だと思う。
委員	昔には戻れないが、何とかそれに近いことをして、それをデジタルで補うとか、知恵をしぼらないといけない。昔の価値観はいけなかったことも多いが、昔に戻りたいところもいっぱいある。
委員	デジタル、DXがあるが、アナログのつながりが失われているのではないかと感じる。くらしの中での学びを忘れてはいけない。 特別支援学校とのふれ合いの中で、教えてもらっていると思うが、昔は同じ学級にそういった子がいて、どう接するかとかに学びがあった。

委員	「人との出会い」が心にひびいた。祭りの工夫、配信でデジタルの活用等、コロナ禍でもできる工夫ができるとよい。中止になって、ゼロになるより良いと感じた。
委員	どれが効果的な活用か、何のためにするのかを忘れないようにする。
委員	地域の伝統を大切にするために、学校がタイアップしながら参画していく。
委員	学校によっては、地域行事に参加させたりできないところもあるのも現状であり、悩ましいところである。
委員	柱①につながっていくものである。連携・協働がないと学習機会の拡大につながらない。
委員	うちの地域は行事がなくなった。自分の親世代でなくした。経済的な目線で見ると、祭りがなくなった。第三者からの評価も必要である。子どものために社会教育に必要なことだと評価されないと、経済の土俵ではそうになってしまう。
委員	「自分にとってメリットは何か。」という点で傾いていく。広く長い目線で見ることが必要である。
委員	価値観の違いが大切ではないか。
委員	多様な価値観に気づきながら、学ぶことへの意義が入らないといけない。 学びが人生で重要かがみんなて共有されると、いろんな意見が出て、いろんな発想が生まれてくる。
委員	柱②の「多様な価値観に気づく」は、一本筋が通った上で多様な価値観でないといけないと感じる。
委員	「気づき」だから、いろいろなことに気づいていく社会教育が必要ではないかと思う。人とのふれ合う中で気づく価値観や情操的な部分が培われる。 話して思いとかを聞く中で、認めることで人の多様性を享受できる社会になるが、機会がない。
委員	現代の社会の中で時代に合った社会教育をどう展開していくかというところの協議なのかなと感じる。
委員	経済的な価値をこえて残るものが地域にはある。人を魅了するものがあつたのではないか。それを今後どうつくっていくか。

※ 主なご意見を集約したもの